

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(医)誓歯会 グローブハウス
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大阪府堺市西区浜寺石津町2丁6-28
記入者名 (管理者)	弘中 悦子(計画作成担当者)
記入日	平成 21年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心と信頼に基づいた安らぎのある暮らしを提供する。小さなことを大きな愛をもって行動する。」という理念をH21年6月より、「地域住民との交流を通じ、安心と信頼ができる環境とその人らしく暮らし続けることが出来る安らぎのあるサービスを提供する。小さなことを、大きな愛をもって行動する。」に改善している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に意識して入居者様とかかわれるよう、常時身に着ける名札に理念を記している。地域の方との交流を継続し、職員との信頼関係を築けるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	小学校との交流会打ち合わせの際、理念の内容を《交流会の目的・ねらいの欄》に取り入れ、先生方に話している。ホームの玄関とスタッフが毎日目にする連絡ノートの表紙に提示している。毎月発行している、まごころ通信に載せており、ご家族、運営推進会議に出席される方に配布し、見ていただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩でご近所の方と挨拶を交わし、立ち話をする中で、花の苗を頂くことがあった。子どもパトロールでは、児童が入居者様を、名前で呼びかけてくれたり、互いに挨拶をかわしたりしている。交流会の場で児童に、自由に会いに来てほしい旨を伝えており、時々、数名ごとで遊びに来てくれている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	《子どもパトロール》を行なっている。3年前に民生委員さんと校長先生より腕章を頂き継続しておこなっている。秋にはお祭りの練習やお祭りを見に行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時の無料介護相談をおこなっている。1階の介護相談の書面を提示しており、それをみて話をしに来られることがある。「話をきいてもらえるところがあって良かった」と話される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価で取り組んでいきたい内容にあげた4項目「職員を育てる取り組み」「暮らしの現状の把握」「服薬支援」「口腔内の清潔保持」はについて、改善に取り組み実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、レジメと毎月発行のまごころ通信を参照に報告をし、出席者から感想や意見を聞いている。又、他事業所との情報交換もしており、入居者様が興味を持っていた「いるかセラピー」の場に出かけるきっかけにもなった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者・看護師が地域包括主催の研修会メンバーになっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設外研修を受けて学んでいる。単身で入居された方には状況に応じて、地域の担当者やご本人に関わる行政機関の方とも話し合いを持ち検討した上で支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について施設外研修で学んでいる。虐待の防止についてはケースカンファレンスにて話し合いケアしている。作成したマニュアルを各階に常備し、誰もが見れるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前のご本人との面談や、ご家族様から不安や質問を聞く時間を作って、話し合いを持った上で契約を結んでいる。契約時は、契約書、重要事項説明書を説明し、質疑応答をおこなっている。解約時は、話がでた時点で解約の流れや詳細を説明。話し合いを持ちながら進めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>お楽しみツアーとして行っている個別の外出は、一人居者様からの思い(意見)からとり入れたものである。3ヶ月に1度の恒例行事として実施している。苦情や不満は個々のケースで異なるため、随時傾聴した上で個々にケアさせていただいている。H21年4月より、月に2度介護相談員にきてもらっており、入居者様からの思いを聞き取ってもらうようにし</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>共通のまごころ通信のほか、H20年9月～暮らしぶりや健康状態、今後の予定、担当者の変更などを「月のお知らせ」でお知らせしている。金銭管理(小口の預かり金)は請求書に記している。いずれも毎月10日に郵送している。また、利用料支払い時や面会時には口頭で、急を要する報告事は電話を使うなどしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月のお知らせに、ご家族様からの思いを書いていただく欄を設けている。ご記入のない場合は、面会時や支払い時に意見を聞き取り、運営に活かしている。(洗面の清掃・衣類の確認などを改善した。)</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時の個別でのききとりの他、月1回のフロアー会議の場でおこなっており、各フロアーごとでリーダー中心に提案内容を実施している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>この1年間の平常時は勤務の調整が必要なほどの状況の変化はなかったが、人手を要する行事の日には、人員を確保するための調整を随時おこなっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>面接時に意思をよく確認して採用している。入職時に担当フロアーを決めている。異動や離職の際は、入居者様が不安やショックをなるべく感じずに済むよう、個々の入居者様の感じ方に合わせた心理面のケアを配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職者には認知症研修、新人マニュアルを用いた育成をはじめ、各スタッフがもった役割に合わせた内外の研修を計画的にとりいれている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>西区内では毎月、堺市全体では半年毎の連絡会に毎回参加している。西区の連絡窓口を務めていることもあり、意識して多くの他事業所の管理者様と関わり、随時の訪問や施設研修の機会を作って実践しておりケアにいかしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に随時ききとりをしている。状況に応じた助言をしている(状況にあった参考文献や記事なども提供している)。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務表とタイムカードで実績を把握している。向上心がもてるような話しかけをしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人が入居を知っているか否かで異なるが、ご本人の思いは入居前面談で聴いている。話しの内容を記録しご本人の思いを知るよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居問い合わせ、入居前面談、入居前面談の前後のききとり、入居日までの随時の問い合わせなど複数回聴く機会を設けている。話しの内容を記録しご家族の思いを知るよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活の今後に不安を抱き相談にこられたケースで、他のサービスと、問い合わせ窓口を紹介したことがある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅での生活ができる限りホームでも続けられるようにご家族様からの聞き取りをもとに、話し合い環境を工夫している。外出の機会。リビングでの過ごし方など		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様を人生の先輩として、一緒に暮らす家族として、意識関わっている。生活の知恵、教えをきき、ともに支えあって暮らしていることを、その時その時に感じていただけるよう関わっている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の出来事・健康状態の変化・気づきをもとにご家族に具体的に話している。ご家族様から話の背景を聞き取ったり、今後のケアについて話し合ったりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	過去の家族関係や、今後のかかわりについての希望を話していただける範囲で聞き取り、それぞれの家族にあった支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限はせず、ご本人の友人、知人に会えるよう場面作りをしている。なじみの場所をご本人やご家族から聞き取り、出かけられるよう予定をたて実施している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様は性格・価値観の違いから、誰でもがいつでも関わりあえる状況ではない。気の合う人同士の関わりは自然にある。職員が話題作りや場面作り(家事・レク)をして入居者様同士が関われるようしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	解約後も他施設や医療機関で、落ち着いて暮らせるように必要に応じて関わりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の楽しみや余暇の過ごし方を中心に、センター方式を抜粋した表を用いてアセスメントしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、暮らし方を随時聞き取り把握している。	○	生活歴などを記している書式が決まっていない。改めて、ケース担当を中心にセンター方式を利用して情報を整理します。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント表、モニタリング表を用い定期的に見直しをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人から聞き取った『楽しみ』を最重要課題にとりあげ、ご本人の状況や思いが反映されたアセスメントをもとに、計画作成担当者がご家族、スタッフ、関係者と話し合いをもち、作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画したプランを、毎月ケース担当者、計画作成担当でモニタリング、話し合いをしており、入居者様の状況に合わせたプランに変更している。又、必要に応じて申し送りの場で随時話し合いを行い、プランを変更することもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、経過チェック表、プラン実施確認表、申し送りノートを参照にする他、朝夕の申し送り、フロアー会議の場などで情報を共有しケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	都度の外出、買い物、通院、往診、訪問マッサージ、日曜礼拝、季節の行事、ボランティア行事等を要望にあった形で支援できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶会・オカリナ・三味線・ハーモニカ・書道・南京玉すだれ・3B体操等・大正琴などのボランティア行事を取り入れている。万一の行方不明時に備え、警察との連携がとれるよう書面を作成している。年2回の消防訓練を入居者様にも参加していただきおこなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の心身の変化、意向に合わせてご家族様と話し合いを持った上で、他のサービスを円滑に受けられるよう関係機関の担当者と密に連絡をとりあい具体的な支援を提供している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	単身の方の事例に関して、必要に応じて関わりをもっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、『眼科』『訪問マッサージ』『精神科』『婦人科』等の受診がかなうよう、各病院と必要な情報をやり取りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人、尊敬すべき方々です。その人の価値観を考慮した言葉かけをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人とのたわいのない世間話から、本心をききとる工夫をしている。その人に合った理解しやすい話題で説明している。ご本人の意思を確認し、思いをとらえながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日、何をしてすごしたいか。をききとり、できる限りそれがかなうよう、スタッフ間で連携して支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物に出かけ、自身で好みの服を選んでもらっている。その人それぞれですが、化粧、マニキュア、ヘアカラーをたのしまれている。理美容は大半の方が、訪問美容(月1回)を利用、1名の方が地域の美容室(2ヶ月毎)を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に献立から作っている。スーパーへの買い出し、調理、食事、片付けも一緒にしている。状況にもよるが、それぞれの方に役割があり、スタッフが一緒にすることでほぼ習慣になっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事などの特別な日に、飲みたい方にノンアルコールビールを用意している。飲み物、おやつ、食事以外の果物、補食は、随時ご本人と買い物に出かけ、購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	経過チェック表に記録や観察内容の記録、スタッフの気づき、以前の習慣をもとに検討し、改善策を実践しています。排泄の失敗を気にせず済むよう、リハビリパンツを有効利用された方もいる。生活が豊かになるよう個々に合った柔軟な対応を意識し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に何回入りたいか希望をきいて、曜日設定をしている。入居者様自身が入る日がわかるよう入浴表を掲示している。入るタイミングは入居者様と話し合い決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自身で生活リズムをくんでいる方は自由にしていただいている。それ以外の方々は、体調にあった休息がとれるよう、都度、ベッドやソファに誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族やご本人から生活歴や趣味、特技を聞き取り、日常の役割や、個人外出(お楽しみツアー)、季節の行事、レクリエーション、ボランティアレクなどで、それぞれの方が楽しめる内容を工夫している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が、普段使用の財布とお金を自身で持っている。他の方は、通常、金庫で預かり、買い物のときに必要な金額を一時出金し、できる限り一緒に買い物にでかけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時に、散歩、買い物、子どもパトロール、にでかけています。屋上でも外の空気を吸うなど、気分転換の場になっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事(お花見、アジサイ観賞他)、お楽しみツアー(お墓参り、ショッピング、神社の参拝、競艇場、カラオケ、外食、教会の礼拝)などで、個別や他の利用者、ご家族などと、いろいろな形でかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、スタッフが付き添い電話を利用させていただいている。手紙のやり取りは、ご家族が遠方で面会がかなわない方、絶えず家族の安否を心配されている方に、安心してすごしていただけるよう特に意識して支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人が会いたい人には、自由に面会に来ていただけるよう、ご家族にお話しています。来られた方には、明るく挨拶することを心がけ、ご本人とゆっくり過ごしていただけるよう、リビングや居室の談話ができる場所を案内している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防マニュアルを各階の事務所に常備し、スタッフの共通認識として身体拘束をしないケアにとりくんでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアのエレベーターホール、エレベーター、1階の玄関は施錠していない。(1階事務所が不在時のみ、1階玄関は施錠)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	直接後を追ったり、わかるように目で追ったりせず、フロアの扉のセンサーや鈴でご本人にはわからないように確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の理解の程度、認知の程度にあわせ、必要な物を必要なときに使えるよう工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットやおこった事故の原因分析を行い、改善策を検討し実施している。改善策の経過をフロア会議で再度話し合い、ケアの確認をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各スタッフが救急救命講習を受けるよう予定をたてて実施している。急変が考えられる場合など随時に、対応や手当てを書面や口頭で看護師から伝えている。	○	定期的にできるよう予定を組む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者様と避難訓練、消火訓練などを行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時にリスクの説明をあわせておこなっている。事故(行方不明・転倒他)時の対応を考慮し、対策を準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温、血圧、脈拍を計測しており、経過チェック表に記録し、状態の変化に気づけるようにしている。計測時には、会話をし、全身状態をさりげなくみること、いつもの違いがないか確認している。スタッフから看護師、医師に伝え、指示をえて、ケアしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携ノートに最新の処方箋を個人別にファイルして、いつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために、ご本人にあった飲み物を提供して水分を確保し、ヨーグルトや野菜を多くしたメニューを検討しながら実行しており、体を動かすレクリエーションや散歩などをとりくんでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	言葉かけ、直接介助、さりげない促しで口腔ケアをしている。毎週金曜日には、歯科衛生士による口腔ケアを受けていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が進みにくい方には、ご本人専用の常備食を代替したり、食事の時間に関係なく、食べたいものを食べたいときに摂っていただいたりしている。季節で嗜好が変わる方への対応もしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを各フロアーに常備している。飛まつ感染の予防にそなえ、マスクの常備もしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表を参照に、夜勤者、早出(当日のリーダー)が消毒作業、管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関には、手作りの表札をかけている。内玄関には、最新の通信やお知らせ、写真を掲示し、温かみのある雰囲気作りをしている。	○	外玄関が殺風景なので、何か工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はリビングの窓にすだれをかけている。毎月、リビング用のカレンダーに挿絵を入れて入居者様と作成している。リビングの掲示板には季節の飾りや、写真をはりだし、共通の話題作りにも一役かっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターホールの窓辺の椅子や、和室、リビングのソファや、各テーブル、屋上、1階のマッサージ機などの場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、使い慣れたものや、選んだ家具を持ち込んでいただいている。居室の家具の配置も希望をきき工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室を空けている間は換気をしている。温度調節の微調整はそれぞれの方にあわせておこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に行き来できる環境を工夫している。歩ける方には、エレベーターより、階段をつかっていただいている。各階への行き来ができるよう各階の出入り口を開放している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ、お風呂、事務所など、廊下に面して同じような扉で見分けがつきにくいところに、案内板を、設けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上は日当たり、風の通りがよく、開放的なので、気分転換できる空間として活用している。屋上に花壇と家庭菜園をつくっていたものがあったが、今は減少している。楽しめるほどでない状況である。	○	花や野菜の手入れをしなおす。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との馴染みの関係が築けるよう、小学校3年生との交流会を1年間通して行っている。入居者様の希望が叶えられるよう、個別レクとして（行きたい所にゆっくり出かけたり・好きなことをしたりできるよう）3ヶ月毎に『お楽しみツアー』を実施している。